

琉球大学学術リポジトリ

1972年の沖縄返還時の有事の際の核持ち込みに関する「密約」に係る調査関連文書No.1

メタデータ	言語: 出版者: 公開日: 2019-02-15 キーワード (Ja): 核持ち込みに問題, ジョンソン次官 キーワード (En): 作成者: - メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/20.500.12000/43894



米長
 米下
 米下
 米下

桐野

米大使と米国の件 (沖縄)

42.11.12 米長

11日他用を以て在京米大使と米長の間、沖
 縄問題につき取極みとなり、米長との交渉が

本在 - 主席公使は聖憲候神、当道視察のよう
 であり、今後沖縄の事情は、右に示す如

らう。

大使 - 公使は旧来、例の要約である。その結果が

どうなり得るかわからず、左に公使院に電
 告が送る事案の是非は、同じことである

から米長に送ることも同じことである。

本在 - 「継続関係」はその方針は、右に示す如

く、沖縄の事情は、右に示す如く、更に此等

GA-6

外務省

半の原理に米といふ可能性を考へれば、いつか
 も終つてはよいが、新内閣の善悪の問題

であるか、新見の上には、有事における核の
 使用、新内閣の再発の回避の自衛使用、と

なるとして、右に示す如く、米長が、米長
 新内閣の大臣が、米長が、米長が

右に示す大使の私見は、

大使 - 右の案の如く、米長が、米長が、
 假に、右に示す如く、米長が、米長が

う文書が、米長が、大使の私見は、

右に示す如く、米長が、米長が、

状況の下に、米長が、米長が、
 米長が、米長が、米長が、

米長が、米長が、米長が、米長が、
 米長が、米長が、米長が、米長が、

GA-6

外務省

付添たる材料が是れ必用である。単に防衛
姿勢と云ふことではなく、現実に沖縄自衛の防衛

を日米両国が引継ぐの事と云ふことではなから
是れに視得べき事である。米軍の協会

は概念的には同じ問題があったか、沖縄に
つては米軍の協会とは規模の異なる問題

である。防衛が何れかの準備を始めてい
たらどうか。

本館—沖縄自衛の防衛と云ふことは在沖米軍の
規模と役割のうちに内蔵した格好である

か、その旨は御指摘のとおりである。防衛が
行上の研究はあつても、現実に自衛の内蔵は

採りに及らぬことではない。

本館—所望にあることは、概念的に考へれば

であると思ふ。

新路線下には自衛の留保たるの前提で申上

げられ、折内閣委員等と米軍の代表と
交渉した上、又月には解決し、両方のスタ

イル、折内閣委員等と米軍の代表と
交渉した上、又月には解決し、両方のスタ

い。

先日米軍協会 Armed Services Committee の古来の

事務局の者が来つた。沖縄を迅速して在
沖基地を確保するにせむ協会、70年後は

1年の準備で沖縄から土を動かさなければなら
ない事と云ふのは不確実であるから困難と

云ふ意見をどう考へるかとは、折内閣委員等
は在沖基地の問題を考へたことは確かである。

本頁—先日—特向記者より同様の質問を受け、
自らは安撫委員は慶幸と云ふが、米國は

平和條約上の権利に基いて片尾に記述が
ある、と云ふような状態は考へられない、と云

つておられる。國務 Army Services Committee は
と云ふ程両軍には不満足。